

ウェブデザインにおけるグリッドシステムの応用

2Q-2

内藤友宏 横井茂樹 茂登山清文

名古屋大学大学院人間情報学研究科

■ はじめに

WWW による情報発信が急速に発展しているが、情報の探しにくいウェブサイトが多いために、なかなか知りたい情報を探すことが難しい状況である。これは、ウェブサイトの構築時に、インフォメーションデザインについての認識が低いために起こる現象であると筆者らは考えた。

閲覧している者が文字の大きさ等の変更を加えながら読むことが可能な点が、WWW の利点である。しかし、だからといって配信する側がレイアウトや読みやすさに気を使わなくてもよいというのではなく、紙メディアにおいて培われてきたデザイン理論を応用し、あらかじめ読みやすいようにデザインしたほうがよいと考える。そこで、WWW におけるインフォメーションデザインの手法の一つとして、1950年代のスイスに起源をもつ、グリッドシステム理論の応用をはかる。

■ グリッドシステムとは

1920年代に端を発するニュータイポグラフィは、第2次世界大戦後全世界に波及した。特に1950年代のスイスでは様々な新しいタイポグラフィの実践が行われた。当時、開発されたグリッドシステムは、抑制された表現やシステムティックな方法論で、見る人の利便性を重視し、グリッドをベースに割り付けていくもので、インフォメーションデザインの手法として、広く世界に知られるようになった。

チューリッヒのデザイナー、ヨゼフ・ミュラー・ブロックマンは、著書“Grid Systems in graphic design”で、グリッドシステムの方法論を展開し、

An application of grid systems to web design
NAITO Tomohiro YOKOI Shigeki MOTOYAMA Kiyofumi
Graduate School of Human Informatics, Nagoya University
Furo-cho, Chikusa-ku, Nagoya
t_naito@info.human.nagoya-u.ac.jp

そのシステムの有効性を述べている。

そこで私たちは、情報のスムーズな伝達を第一に考えられたスイスデザインを体系的にまとめたグリッドシステム理論をウェブデザインに応用することが、現在のWWWにおける情報伝達の問題に対する解決策の一つとなるのではないかと考えた。

グリッドシステムをウェブデザインに応用する利点を挙げると、グリッドの構築は全て数値で管理されているため、HTMLへの応用も、比較的容易である。また、数学的な手法でレイアウトを決めていくため、デザイナーの主観的な部分が少なく、ある程度、客観的で普遍的なデザインを行うことができる。そして、一度グリッドを組んでしまえば、その組み合わせでレイアウトが完成していくので、容易で効率よくサイトを構築できる点などがある。

■ グリッドの構築

それでは、グリッドの構築方法について述べていく。まずは、技術的な側面であるが、記述言語としてはHTMLとCSSを用いる。これは現在の最も一般的なウェブサイトの記述方法である。テキストやイメージの配置方法は、CSSのレイヤー機能による配置は対応していないブラウザがまだ多いために使用せず、HTMLのテーブルタグを利用する。

構築の手順として、ウィンドウサイズ、フォント、行間、段幅を順に決定していく。これには、タイポグラフィの基礎的な技法を使用する。

ウィンドウサイズは、ウェブデザインと紙面のデザインの最も大きな違いである。紙のサイズは一定であるのに対して、ウェブサイトを表示するウィンドウのサイズは見ていくユーザが自由に決めている。このことを把握しておかないと、制作者の意図しないレイアウトで閲覧者はウェブサイトを見る危険性がある。これを避けるために、閲覧するユーザを想

定しながら構築することが重要である。次にフォントであるが、タイポグラフィにとって、フォントの選択は重要なファクターである。しかし、残念ながらウェブにおけるフォント環境では十分な結果は得られないので、スタイルの指定はおおまかなものに止める。ほかにも、文字のサイズ、行の長さ、行間によって、閲覧者が快適に文章を読めるかどうかが決まるので、慎重に選択する必要がある。このような要素を元に、グリッドを作成し、そのグリッドに基づいてテキストやイラストを配置していく。

■ グリッドシステムを用いたレイアウトの例

上記の手順を踏まえて作成したグリッドを一例として、応用の方法を見ていく。

Fig.1

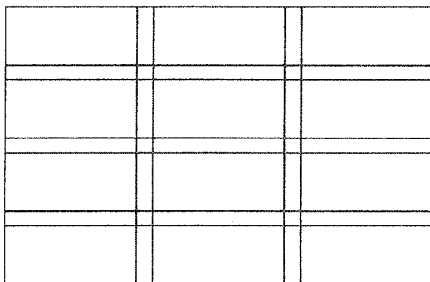


Fig.2



Fig.3



Fig.1 は、例として作成したグリッドである。縦 4 × 横 3 の合計 12 グリッドから成り立つ。Fig.2、Fig.3 はこのグリッドを使用してレイアウトを施した例である。このように、一連のページに同じグリッドを使用することで、統一感のある、整然としたウェブサイト構築することが可能である。また、用途にあわせて行間や段幅などを変化させることにより、無数のグリッドが構築できる。ここで挙げたグリッドは、ほんの一例にすぎない。

■ まとめと今後の課題

これまでに述べてきたことをまとめると、まず WWW の現状とウェブデザインの必要性について考察した。そして、グリッドシステム理論がどういう特徴を持ち、ウェブデザインにグリッドシステム理論を応用することの利点を述べた。

具体的な応用を進めていくために、タイポグラフィの基礎的な部分に触れ、グリッドの構築方法を説明した。そして実際にグリッドシステムを用いた使用例を挙げた。

今後の課題であるが、OS やブラウザ間の表示の差異は非常に多岐に渡っているために、その調査が必要である。また、次世代の WWW 記述言語として期待がもたれている、XML への応用も可能であると考えられる。そして、時間軸やインタラクティブ性など、WWW ならではの視点からのウェブデザインへの考察も行っていきたい。

参考文献

- 1.日経マルチメディア 8月号, 日経 BP 社, 1998
- 2.デザインの現場 vol.14 no.89,美術出版社, 1997
- 3.グリッドシステムによるページデザイン, アンドレ・ジュード,ビー・エヌ・エヌ, 1999
- 4.Grid Systems in graphic design, Josef Muller-Brockmann, Verlag NiggliAG, 1981
- 5.スタイルシート Web デザイン, すみけんたろう, 技術評論社, 1998